科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名<英訳>	英語リーディング ER12 1J1 English Reading			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉田 恭子		
群	外国語科目群	分野(分類)		使用言語	日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火4	配当学年	1回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

Immanuel Wallerstein, "European Universalism: The Rhetoric of Power" (2006)を講読する。ウォーラーステインは世界システム論で知られるアメリカの思想家。本書は人権や民主主義、市場や競争の正当性、科学的実証性など一見世界平等の価値観を唱える「普遍主義」が近代社会においていかにヨーロッパ中心主義的な枠組みとなってきたかを批判しており、現代の社会運動においてしばしば普遍主義批判の典拠とされる。授業は毎回複数の担当者による発表を中心に、論理的英語を正確に読み取る読解力の向上を目標に、適宜解説や小テストを交えながら進める。自らの興味がある専門的領域について、英語による文献読解の基礎力を涵養することを目的とする。

[到達目標]

（1）歴史社会についての一般書を英語で読みその概要を正確に把握することができる。
（2）一般書に頻出する基本的語彙を習得し、自分で用いることができる。
（3）ある程度の長さの英文について内容を要約し、疑問や意見をまとめられる。
（4）自分が興味ある領域の英語テクストを積極的に読む意欲を養う。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
本書の概要及び授業の進め方を説明する。使用すべき辞書や予習の指針を紹介し、また、出席者の担当部分を決定する。

第2回～第13回　テクスト講読
「授業の概要と内容」の指針に従い、"European Universalism" を講読する。担当者（1回3~5名程度）の発表に加えて、より正確な英語読解のための説明や、関連テーマ理解のための語彙解説、本書の修辞的特徴や歴史的文脈について補足的講義をしながら進める。また、適宜小テストを行う。

第14回 学習到達度確認試験
英語リーディングの習熟度およびテクスト全般の理解について1時間程度の試験を行い、終了後、試験内容について解説を行う。

第15回　まとめ
評価したテストを返却し、今学期の学習をふりかえる。関連テーマについての英語中級学習者向き文献などを紹介する。

英語リーディング ER12(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER12(2)

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

担当発表・レジュメ作成（30%）
小テスト・授業内課題・授業への参加状況（30%）
定期試験（40%）
5回以上欠席した場合は成績評価の対象としない.

[教科書]

Wallerstein, Immanuel 『European Universalism: The Rhetoric of Power』（The New Press, 2006）ISBN: 9781595580610

[参考書等]

（参考書）
ウォーラーステイン，イマニュエル 『ヨーロッパ的普遍主義―近代世界システムにおける構造的暴力と権力の修辞学』（明石書店, 2008）（山下範久訳）

[授業外学修（予習・復習）等]

・発表担当者は担当箇所についてレジュメを準備する。形式は自由。日本語で概要を説明した上、読解上・内容上特に重要と考えた語彙や背景知識・トピック探求・疑問点を抜き出し、詳しく説明する。
・発表担当のない出席者は、毎回授業で読む箇所について、原文に目を通し、とりわけキーとなる用語で未修得なものについては調べておく。授業中に内容確認や要約の小テストを適宜行う予定。
・大学学習者レベル以上の英和辞典もしくは英英辞典を使用する。紙・電子辞書の形態は問わない。

・総合的英語力の涵養のためには、印象的な箇所や、大切だと思われた箇所を朗読することを勧める。

[その他（オフィスアワー等）]

KULASISのオフィス・アワーを参照のこと
その他の時間はメールによるアポイントメントでの面談

[主要授業科目（学部・学科名）]